

# トラの 干支展 大特集



## トラを 特集するにあたり

今年の干支はトラ。「寅」の字は時を表し、「虎」は動物の姿形からつくられた象形文字です。また、トラの英語表記はTigerで、すばやく力強く動くことを意味するラテン語のtigris(チグリリス)が語源です。メソポタミア文明発祥の地、チグリリス・ユーフラテス川の、あのチグリリスです。

トラはあの独特の縞模様がトレードマークですが、しなやかで繊細な反面、猛々しい力強さも見せてくれます。そうかと思えば時に愛らしい仕草や甘え声を発するなど、森の王者トラは実に魅力的な動物です。

東洋人はそんな動物に神秘性、霊性感えていたに違いありません。昔から人々を惹きつけてきた証に、トラは実にたくさんの故事やことわざに登場します。「虎は千里往って、千里を還る」とありますが、我が子への強い思いを表現するたとえとして、またある時には遠距離をすばやく移動するエネルギーを存在としてたとえられます。

人は折に触れ、自然や動物に生きる原点を探ることがあります。親子や家族の絆の希薄さが話題になり、また元気を失いがちな厳しい現代社会にあって、トラ年の今年、トラに学び、トラからパワーをもらいたいものです。

本号では大森山動物園で飼育しているアムールトラにスポットを当てた特集を企画しました。このことをご紹介させていただき、年頭のごあいさつといたします。人を魅了し続けてきたトラがこの地球上から姿を消してしまわないように、トラを少しでも知り、関心を高めていただけたら幸いです。

園長 小松 守



2010年は寅年。「雪の動物園」の開催中、干支の寅にちなんでトラに関する理解を深めていただくため、手づくり解説パネルを設置し「トラの干支展」と題する特別展を行っています。今回は、「この「トラの干支展」を大特集します。」



トラの縞は どうしてできた?

園長 小松 守

**ト**ラに縞模様ができたことを興味深く伝える中国のお話があります。昔、ある地方にトラと竜(りゅう:龍)が住んでいました。トラは、人が増え、山を乱開発するのが許せませんでした。竜は、人が水を汚すのが気に入らませんでした。一方、トラと竜は、どちらが強いかをいつも張り合っていました。トラは大声で吠え、大風を吹かせました。竜は怖くなり、岩山に身を隠しましたが、人は平気で身をすくめて岩山に逃げ込みましたが、人は笠をかぶり、タバコをふかして、やはり平気な顔をしていました。今度は、人がトラと竜を草原に誘い、火を放ちました。火に追い立てられたトラと竜は逃げまどい、トラは山奥の森に、竜は遠い海に逃げ去りました。この火

事で負ったやけどの痕は、トラのあの縞模様になり、また竜のガサガサのうろこ(鱗)になったそうです。このお話は、縞模様の起源をおもしろく伝えていますが、これとは別に人と自然の関わりで現代社会にも通じる何かをもっています。人は特殊な文化を持ち、里で豊かに暮らしています。架空の動物の竜は別として、動物の王者トラを山奥の森に追い込み、苦しめています。自然や生き物を絶滅に追い込んでいる今の人の営みと重なります。トラ(動物)を見ながら、人も動物も自然に生かされ、共に生きる生き物であることに思いを巡らせてほしいものです。

## トラ ネコ目 ネコ科 ヒョウ属

トラ(虎, Panthera tigris)ネコ目(食肉目)ネコ科 ヒョウ属。学名のPantheraは、「完全な狩人」という意味で、ヒョウ属をあらわし、tigrisは、チグリリス川に由来する「とても流れの速い川」を意味し、トラの敏しょう性や力強さを表現しています。英語のtigerの語源にもなっています。



## 減少するトラ

かつてはアジア大陸に広く生息していましたが、この100年間で生息域の9割が失われ、生息数も10万頭から4千頭にまで減少しました。現在もトラの生息環境は悪化し、生息数は減少し続けており、絶滅の危機に瀕しています。

## 現在のトラの分布域

現在、極東ロシアなどにアムールトラ、インド大陸などにベンガルトラ、東南アジアにはインドシナトラ、マレートラ、スマトラ半島にはスマトラトラが生息しています。(中国南部のアモイトラは、近年の確認情報なし。)各国のトラの生息地は、ほとんど相互につながりがなく分断された形で、将来的にトラの種の存続は厳しい状況にあります。(IUCNの資料より)



## トラの亜種

アムールトラ	Panthera tigris altaica	極東ロシアなど
ベンガルトラ	Panthera tigris tigris	インド大陸など
インドシナトラ	Panthera tigris corbetti	インドシナ半島
マレートラ	Panthera tigris jackson	マレー半島
スマトラトラ	Panthera tigris sumatrae	スマトラ島

(注)カスピトラ、バリトラ、ジャワトラは絶滅、アモイトラは近年情報なし。

## 日本で飼育中のトラは3種類



## 生態と行動

森林や湿地などに生息し、群は作らず、繁殖期以外は単独生活をします。広大な縄張りを形成し、縄張りを歩き回って獲物を探します。一晩の狩りで10~20kmを歩きますが、成功率は10回に1回程度。好んで水に入り、水辺で獲物を狙うこともあります。

主にシカ、イノシシなどを捕食しますが、時に昆虫、果実、種子も食べ、大型獣の仔や家畜、人間を襲うこともあります。茂みなどに隠れて獲物に忍び寄り、近距離から跳びついて仕留めます。身体の縞模様は、草藪などに溶けこみ、輪郭をぼかすカムフラージュ効果があります。

## 繁殖

南方では周年繁殖しますが、北方亜種は11月から4月に繁殖します。妊娠期間は100日前後で、1回に2~4頭の仔を産みます。授乳期間は4か月前後で、母親のみで仔を育てます。仔は数週間で巣穴から出て、2才頃まで母親と一緒に過ごします。この頃までに仔の半数は命を落とし、オスが仔を殺すこともあります。生後3~4年で性成熟し、寿命は約15~20年ほどです。

トラは巣穴で仔を産み育てます

巣穴から出た親子

よく水浴をします

## 大森山動物園のトラ飼育歴

大森山動物園では、現在アムールトラを展示中ですが、1973年から2005年までベンガルトラがいたのをご存じでしたか？ここではベンガルトラの簡単な説明と、現在までのトラの飼育歴を紹介いたします。



## ●ベンガルトラ

1973/10/22	メス「ミドリ」	当歳 動物商より購入	出身: 到津動物園
1974/ 4/23	オス「トラオ」	1歳 動物商より購入	出身: 長野須坂市動物園
1977/ 3/28	オス3頭、メス2頭	繁殖(トラオ×ミドリ)	
1977/ 3/29	オス3頭、メス2頭	死亡	
1977/ 7/28	オス2頭、メス1頭	繁殖(トラオ×ミドリ)	
1977/ 8/10	オス1頭、メス1頭	死亡	
1977/ 9/30	オス1頭	動物商へ転出	
1978/ 4/21	オス3頭、メス2頭	繁殖(トラオ×ミドリ)	
1978/ 7/22	オス2頭、メス1頭	死亡	
1978/ 8/18	オス1頭、メス1頭	動物商へ転出	
1979/ 4/6	オス2頭、メス1頭	繁殖(トラオ×ミドリ)	
1979/ 5/28	オス2頭、メス1頭	動物商へ転出	
1979/ 8/12	オス1頭、メス1頭	繁殖(トラオ×ミドリ)	
1979/10/23	オス1頭、メス1頭	動物商へ転出	
1981/ 3/9	メス2頭	繁殖(トラオ×ミドリ)	
1981/ 5/14	メス2頭	動物商へ転出	
1982/11/8	メス「ラン」	繁殖(トラオ×ミドリ)	
1983/10/31	メス「ミドリ」	動物商へ転出	
1986/ 8/21	不明3頭	繁殖(トラオ×ラン)	
1986/ 8/24	不明3頭	死亡	
1987/10/11	オス1頭、メス2頭	繁殖(トラオ×ラン)	
1989/ 3/29	オス1頭、メス2頭	動物商へ転出	
1989/ 3/29	オス「寅次郎」	動物商より購入	
1989/ 3/29	オス「トラオ」	動物商へ転出	
1989/ 6/29	メス「ラン」	死亡(7歳)	
1989/11/30	メス「マドンナ」	神戸市立王子動物園より転入	
1993/11/19	オス「ヒロシ」、メス「サクラ」	繁殖(寅次郎×マドンナ)	
1994/ 6/12	「マドンナ」	神戸市立王子動物園より寄贈扱いとなる	
1995/ 5/30	「ヒロシ」	到津動物園へ転出(BL)	
1995/11/5	オス1頭、メス1頭	繁殖(寅次郎×マドンナ)	
1996/ 1/27	「ヒロシ」(到津動物園)	BL契約解除	
1996/ 5/10	オス1頭、メス1頭	動物商へ転出	
1998/ 7/13	サクラ(到津動物園)	BL契約解除	
2004/ 3/15	「寅次郎」	死亡(16歳)	
2006/ 9/14	「マドンナ」	死亡(18歳)	

## ●アムールトラ

2005/ 3/12	オス「ウィッキー」	富士自然動物公園より購入
2007/ 6/8	メス「アシリ」	多摩動物公園より転入(BL)
2008/ 3/6	メス2頭「アルル」「ミルル」	繁殖(ウィッキー×アシリ) ※ミルルはBL契約により多摩動物公園所有
2009/ 6/18	「アルル」	広島市安佐動物公園へ転出(BL)

**BL: プリーディングローン**  
プリーディングローン(BL)とは、繁殖を目的とした動物の貸し借りのことです。生まれた子供の所有権は、契約時にあらかじめ決めてあります。

## ●ベンガルトラとは?

国内の動物園で飼育されている頭数は96頭(2007年JAZAより)、野生下での生息数は約3,500頭(1999年EEPまとめより)です。1930年にはインドだけに4万頭は生息していたという推定があります。しかし、その後の減り方は激しく、1969年にニューデリーで国際自然保護連合の総会が行われ、そこでニューデリー動物園の園長は「インドのトラは、わずかしが生き残っていません。R.D.B(レッド・データ・ブック)に記載し、保護を」と訴え、1972年からインド政府は「タイガー・プロジェクト」を組んで保護区を設けるなど、積極的な活動を開始しました。(講談社「世界の天然記念物 国際保護動物 2哺乳類 地中海・中近東・インド」より)



生息域:インド南部~ネパール、アッサムに分布



他の亜種に比べて大型で、オレンジ色を帯びた茶色をしています。アムールトラはベンガルトラより淡く、鮮やかです。

※「トラの干支展」の内容等については、WWFの資料等を参考にしています。